

ボッチャ交流会

郡上人権擁護委員協議会

令和8年6月24日（水）、岐阜県ボッチャ協会の方と所属選手1名が、本年度の人権推進校である北濃小学校を訪問され、交流会が行われました。

北濃小学校の全校児童数は、46名。ボッチャ交流会には、1～6年生の全員が参加しました。また、北濃地域から特別支援学校に通う6年生の児童も交流会に参加しました。



ボッチャ協会の方が、「ボッチャは、年齢差があっても出来る競技です。」「楽しくやっこう。」と話されました。

ボールは、どんな投げ方をしてもよい。手が使えなければ、足で蹴ってもよいのだと聞いて、「バスケットボールみたいな投げ方でもいいのかな？」と子どもたち。

「両手で投げても、ころがしても…どんなやり方でもよい。」という回答に、顔を見合わせ、うなずいている子どもたち。

床に置かれた円い枠をめがけて、ボールを投げる練習が始まりました。

はじめは、狙うところから大きく外れたり、届かなかったり、ボールの弾み具合や転がり具合がつかめないようでした。

3投目ぐらいになると、少しずつコツがつかめてきたようでした。

選手の方が、「子どもさんたちは、ボールを投げる感覚の吸収力がすごい。」とつぶやかれました。





試合では、赤と青のチームに分かれます。それぞれ6球ずつボールを投げ、白いボールに近づけます。白いボールに、より近かったチームの勝ちとなります。

選手の方と先生の模擬試合では、子ども達は選手の方が投げるボールの行方に釘付けになり、ボールが止まると拍手と歓声が上がりました。



「それぞれのチームに分かれ、ゲームをはじめます。」と声をかけられると、コートへ向かう子どもたちの様子から、わくわく感とやる気が伝わってきました。



「ゲームのルールは分かる？」と1年生の子に聞いてみました。首をかしげた子を見て、「大丈夫。分からなかったら、私が教えるから。」と傍にいた高学年の子が声をかけました。

どの子どもとても楽しそうに、ボールを投げていました。自分の投げたボールが白いボールに近づくと満足そうな表情になり、仲間の投げたボールが白いボールに近づくと拍手をして、ボッチャ協会の方が言われたように年齢差は関係なく、楽しむ姿がありました。



ゲーム後の選手の方との交流会では、子ども達の質問が相次ぎました。選手の方は、「ボッチャの練習は、毎日やっている。ボッチャは、楽しい。ボッチャを通して皆さんと一緒に、交流できることがうれしい。」と話されました。

みんなが笑顔で過ごした一時、ボッチャ交流会は子どもたちにとってよい体験の機会になりました。